

令和元年度 授業評価アンケート年間集計結果（専門学校浜松医療学院）

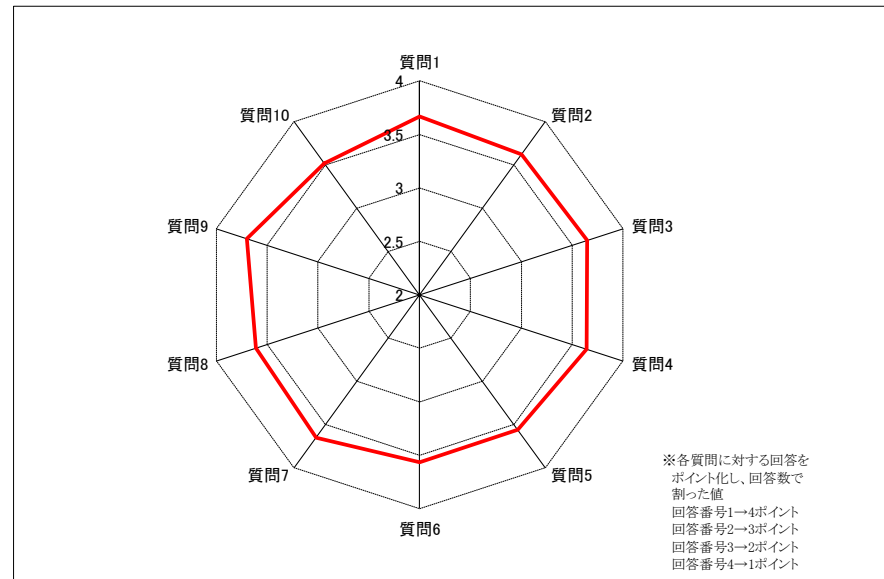
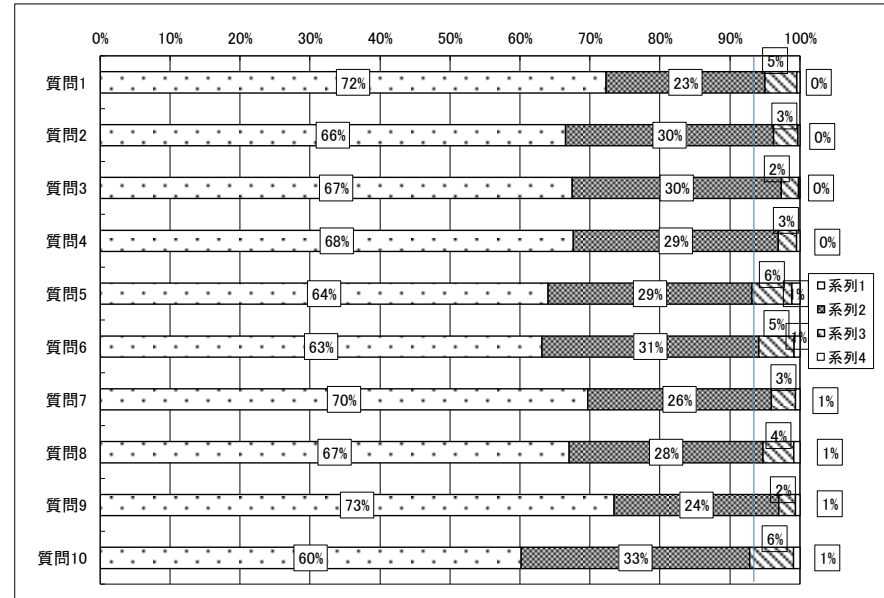
学科	鍼灸・柔道整復(学校全体)	学科
学年	全学年(1・2・3年)	年
部	全部(Ⅰ部・Ⅱ部)	部
授業科目	全科目	

回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

質問	回答					
	1	2	3	4	無回答	
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	2764	868	175	17	7
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	2540	1136	133	11	11
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。(携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。)	2579	1143	94	8	7
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	2584	1118	100	19	10
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	2446	1114	217	45	9
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	2411	1182	193	32	13
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧に適切な対応をしていた。	2665	1002	133	24	7
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	2559	1059	167	34	12
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	2808	901	91	24	7
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	2300	1250	239	35	7
回答人数(のべ)					3831	

質問5および質問6は昨年度と比較した評価に大きな変化はみられなかったが、質問7「教員の学生からの質問や意見に対する対応」や質問8「教員は学生が理解できるよう分かりやすく授業を進めていた」の項目については、昨年度より評価が上昇している。
この点については教務全体として「学生の目線に立った授業展開」を意識できた結果であると評価できる。
評価全体の改善が質問10「授業でわかったできたと思う…」の上昇につながるよう、今後の授業や教育活動充実に努めたい。

教務部長



令和元年度 授業評価アンケート年間集計結果（鍼灸学科）

学科	鍼灸学科(全体)	学科
学年	全学年(1・2・3年)	年
部	全部(Ⅰ部・Ⅱ部)	部
授業科目	全科目	

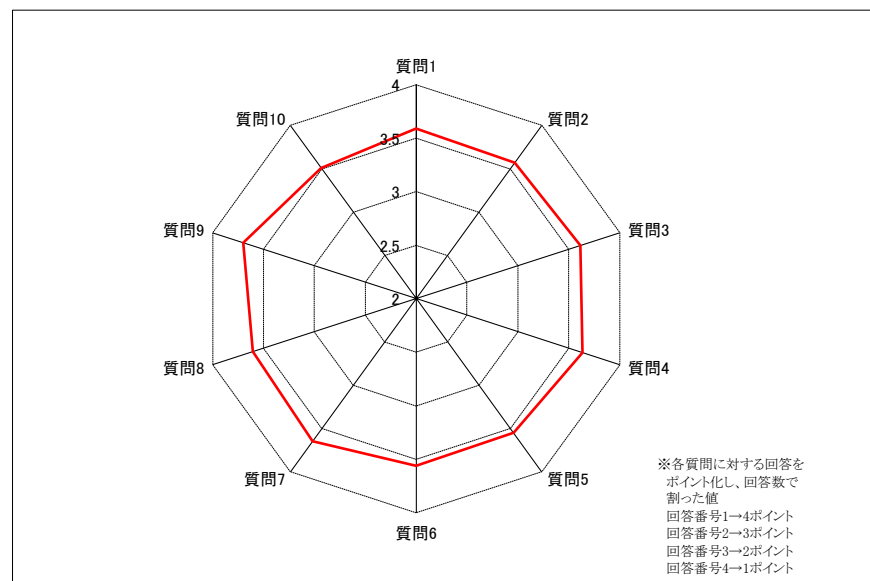
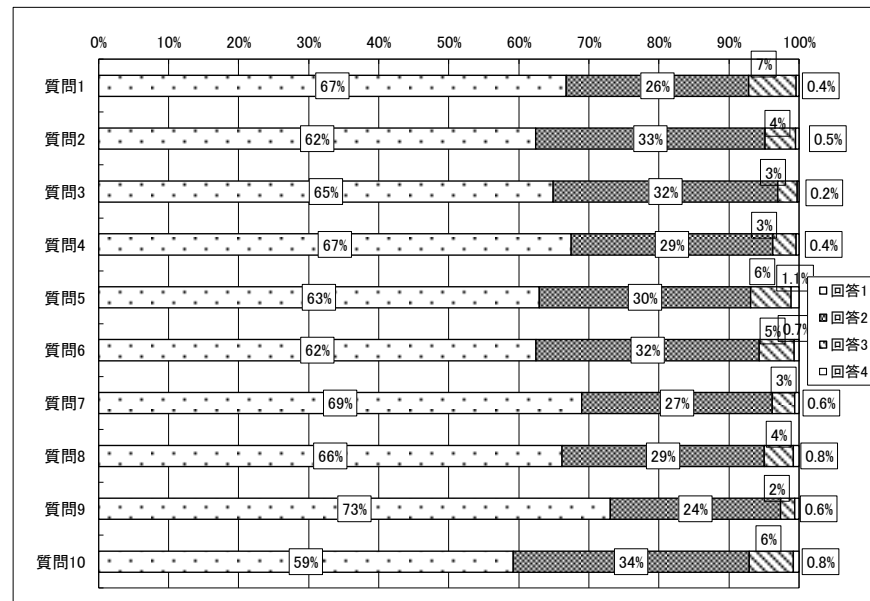
回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

質問	質問	回答				
		1	2	3	4	無回答
1	自分は授業に遅刻や欠席をしないように努めた。	1145	447	116	7	1
2	自分は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	1070	561	75	8	2
3	自分は授業を受ける際に、きちんとマナーを守っている。 (携帯電話の操作、飲食、途中入室、私語、居眠り等をしていない。)	1114	550	48	4	0
4	授業はシラバスの通り、計画に従って実施された。	1157	494	57	7	1
5	教材やプリントを用いるなど、学生が興味・関心をもてるように工夫された授業である。	1079	518	99	19	1
6	授業の量・速度・レベルは適切である。	1070	546	85	12	3
7	教員は学生の質問や意見に対し、丁寧に適切な対応をしていた。	1183	467	55	10	1
8	教員は学生が理解できるよう、わかりやすく授業を進めていた。	1134	495	71	14	2
9	教員の話し方、言葉遣いは適切である。	1253	417	35	10	1
10	授業で「わかった」、「できた」と思うことがある。	1015	578	108	14	1

回答人数(のべ) 1716

質問5・6の項目について、若干ではあるが昨年よりも低値を示している。学生らの傾向として「教科書を開かない」「教科書に目を通さずプリントしか見ない」ひいてはそれらが「読解力の低下」の一要因となっていると判断し、「脱プリント」「教科書の読解・要約」などの教育展開の励行を教員に呼び掛けた。そのことが、教科書を読みなれていない学生らにとって、急激な変化を要求され戸惑った学生らの反応の表れであるようにこの結果は解釈できる。…にもかかわらず、質問10については大した減少傾向を見せることもなく現状をほぼ維持しており、学生にとって、今は苦痛に感じる勉強習慣であるかもしれないが、続ける価値があるものと思料する。

鍼灸学科長



令和元年度 授業評価アンケート年間集計結果（柔道整復学科）

学科	柔道整復学科(全体)	学科
学年	全学年(1・2・3年)	年
部	全部(Ⅰ部・Ⅱ部)	部
授業科目	全科目	

回答番号	1	よく当てはまる。
	2	ほぼ当てはまる。
	3	あまり当てはまらない。
	4	ぜんぜん当てはまらない。

質問	回答				
	1	2	3	4	無回答
1	1619	421	59	10	6
2	1470	575	58	3	9
3	1465	593	46	4	7
4	1427	624	43	12	9
5	1367	596	118	26	8
6	1341	636	108	20	10
7	1482	535	78	14	6
8	1425	564	96	20	10
9	1555	484	56	14	6
10	1285	672	131	21	6

回答人数(のべ) 2115

質問1の授業の遅刻・欠席について、全項目において最も高い結果ではあるが、昨年度の学生状況を見ると遅刻・欠席常習者の数は学生の自己評価より多く存在していると思われる。この結果より、学生の意識のなかでの学校への出席について『多少なら欠席してもいい』、『数回の欠席であれば十分である』との意識が定着している可能性がある。この点に関しては学生の意識改善が必要であり、授業は通常であれば全出席が当然となるようにしたい。

質問10（授業で「わかった」、「できた」と思うことがある）については全項目の中では結果が低い傾向にあるが、昨年度と比べると結果は改善しており、教員の授業改善の結果が出たと考察できる。

柔道整復学科長

